

＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞
感染対策の基礎知識と具体策

～ノロウイルス～

所属 _____

氏名 _____

この研修の目的

- ・ ノロウイルスによる感染症とその発生要因を理解し、予防に務めることができるようになる。
- ・ ノロウイルスによる感染症発生時の対応を学び、症状悪化や二次感染を予防できるようになる。

MEMO

ノロウイルスとは

- ・ 体内に入ると急速に増殖し、()
症状を引き起こす
- ・ 特に()に流行することが多い
- ・ 原因食品として、「カキ」などの()が
多く報告されている
- ・ 全年齢に感染し、特に抵抗力の弱い高齢
者は()しやすいので注意が必要

MEMO

ノロウイルスによる 急性胃腸炎の症状

- ・ 主症状は()
- ・ 胃をひっくり返すような激しい嘔吐や吐き気が()に起こる
- ・ 潜伏期間(感染から発症までの時間)は()時間
- ・ 通常は発症してから()で回復
- ・ 感染しても、()のような症状で済む場合もある

MEMO

ノロウイルスの特徴

- ・ 細菌より小さく、()でしか増えない
- ・ 自然界で()生存する
- ・ 少量で人に食中毒を起こす
- ・ 消毒()など)や加熱()により、感染力を失うとされている
- ・ 感染力が強く、感染者の便や吐しゃ物により()を引き起こすことがある

MEMO

介護施設でのノロウイルス発生例

- ・ 100名定員の施設で、食事中入居者の1人が嘔吐。その後10日間で入居者51名、職員13名が下痢・嘔吐の症状を訴える
 - ⇒ 検査の結果、ノロウイルスが検出
- ・ 施設で調理された給食が原因だと疑われ、保管されていた検食や調理従事者の便を検査
 - ⇒ ノロウイルスや他食中毒菌は検出されず
- ・ 罹患者の中に経管栄養者や施設の食事を()職員もいたため、施設を発生原因とする可能性を否定
- ・ 施設内では施設職員や清潔観念の乏しい入居者自身の()を介し拡大したと認定された

施設は事態の終息まで利用者の()し、
専門業者へ()を依頼することとなった

MEMO

ノロウイルスが発生するとどうなる？

①入居者・利用者への影響

- ・ 高齢者は抵抗力が弱いため、症状が重症化し()することがある。しかし、もともとの()や()など他の原因も重なるため、ノロウイルスの感染がどの程度影響したか見極めることは困難
- ・ その他、嘔吐物の誤嚥による()や、喉に詰まらせ()するなど、ノロウイルスが関係したと思われる場合であっても、直接の原因とならない場合もある

MEMO

ノロウイルスが発生するとどうなる？

②職員への影響

- ・ 職員の手指を介した()がないよう、()や()の強化、()の処理などが必要となる
- ・ 個室管理が必要となる場合は、単純に職員の()が大きくなる
- ・ 職員自身も感染の可能性があるので、精神的負担感も発生し、組織の()を生み出す要因にもなり得る

MEMO

ノロウイルスが発生するとどうなる？

③施設運営への影響

- ・ 施設内で調理した食事が原因であった場合、食品衛生法に基づき、() (3日間)などの行政処分を受ける
⇒ ()の手配が必要となる。
- ・ ガウンやマスクなどの()が必要となり、()を伴う
- ・ 保健所からの公表、新聞やテレビで報道などがあると、施設に対する()を失う
⇒ 以降の運営に大きな影響を及ぼす

MEMO

ノロウイルスの感染経路

- ・ ほとんどが()で、主に汚染された牡蠣などの2枚貝を、生あるいは十分加熱調理しないで食べた場合に感染する
- ・ 感染者の便や嘔吐物などにより汚染された手指で取り扱った食品を介し、()を引き起こす
- ・ 嘔吐物が乾燥して、()したものを吸い込むことでも感染する

MEMO

感染拡大を予防するために

- ・ 入居者、職員共に()を習慣づけることが感染拡大予防の基本

まずは、石鹸と流水による手洗いを行い、物理的にノロウイルスを()する

- ・ 罹患者の嘔吐物などの処理は、()な方法で、()に、()に行う

処理後には、窓を開けるなどして室内に()を入れ、換気する

MEMO

ノロウイルス発生時の対応

ノロウイルスは感染力が強く、消毒薬に対する抵抗も高いといわれている

⇒ 市販の除菌グッズでの対応は不可

＜ノロウイルスを不活化するには＞

- ① 85℃以上、90秒以上の()
- ② 次亜塩素酸ナトリウムによる()

MEMO

感染者の嘔吐物処理

- ・ 感染者の嘔吐・下痢は()起こる
- ・ 処理する()への感染と、()での感染拡大を防ぐ

<事前に注意しておく物品>

()・()・()・()
()・()・()
()



常日頃から準備しておくこと!

MEMO

嘔吐物処理の手順①

- ① 嘔吐物のある場所に処理に関わる人以外の人が
()ようにする



- ② 処理をする人は
()を
着用する



- ③ 嘔吐物はペーパータオルで
()に向けて静かに拭き取る

MEMO

嘔吐物処理の手順②

- ④ 拭き取った嘔吐物やペーパータオルは、すぐに()に入れる



- ⑤ 嘔吐物が付着した床とその周辺を()次亜塩素酸ナトリウムを浸み込ませたペーパータオルで()か、()
(二次感染予防)



MEMO

感染者の嘔吐物処理方法③

⑥ 手洗い

- ・()
- ・()
- ・()

しっかりと汚れを除去する



※使用した着衣は()が望ましいが、消毒する場合には0.02%次亜塩素酸ナトリウムに60分浸し、通常洗濯を行う

◎予防具の着脱方法については「感染予防の3原則・予防具の使用」を参照

MEMO

感染者の嘔吐物処理のポイント

- ・ 嘔吐物を処理した後、() (潜伏期間) は感染者以外の感染の有無に注意をする
- ・ 嘔吐物の処理時とその後は、大きく窓を開け、() を十分に行う
⇒ 換気設備がある場合には必ず運転する



<注意>

適切な処理が行えない場合には、
() し逆効果となる！

MEMO

ノロウイルスの消毒方法

	消毒方法
手指	() ※物理的に除去しておくことが重要
汚染器材	洗浄後、0.1%次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度1000ppm)に30分以上浸す
吐物や便で汚染された環境	汚物をペーパーで取り除いた後、0.1%次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度1000ppm)で清拭
テーブルなど	0.1%次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度1000ppm)で清拭
トイレの便座など	0.02~0.05%次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度200~500ppm)で清拭
リネン類	下洗い後、熱水洗濯(85℃以上1分間以上) 又は下洗い後0.05~0.1%次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度500~1000ppm)へ漬けた後、通常洗濯
食器類	洗浄後、0.02%次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度200ppm)へ浸す 又は使い捨て食器を使用

MEMO

食中毒にいち早く気づくために 観察／報告のポイント

- 高齢者介護施設では、感染症そのものをなくすことは難しい
- 異常の早期発見に向けて、入居者の()を把握しておく

以下のような症状があった場合には、看護師に報告し、症状を記録する

【 】 【 】 【 】 【 】
【 】 【 】

「普段の様子と違う」と感じたら、すぐに報告！

MEMO

ノロウイルス予防における 介護職の役割

- ・ ノロウイルスは施設の中で自然発生するものではありません
- ・ 感染症のまん延を防止する観点から、日頃からの研鑽(研修)が必要となります
- ・ 平常時より、適切な環境整備とスタンダードプリコーション(標準予防策)を行うことが重要です
- ・ 流行の時期には職員自身が食事に注意するなど、介護職員として自律することも重要です

MEMO
